

令和 7 年 12 月 3 日

生誕 150 年記念 木村武山展

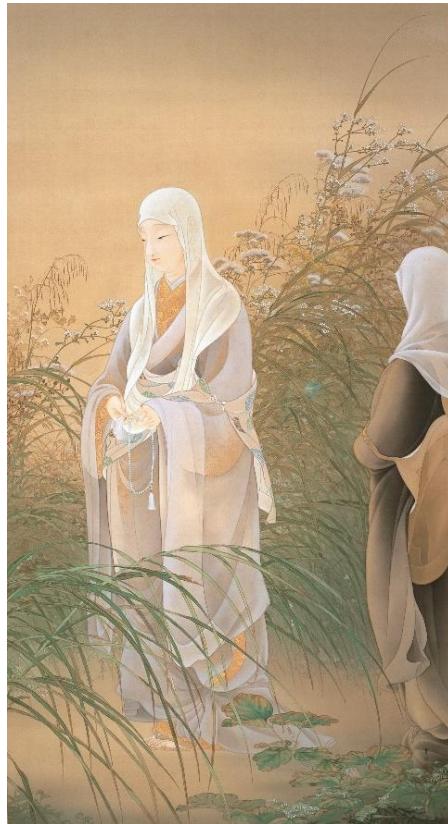
会期：2026 年 2 月 11 日（水・祝）～4 月 19 日（日）

前期：2 月 11 日（水・祝）～3 月 22 日（日）

後期：3 月 24 日（火）～4 月 19 日（日）



春暖 古面蘭陵王
昭和 7 年-10 年頃 (c. 1932-35) 個人蔵
※後期のみ



祇王祇女
明治 41 年 (1908) 永青文庫蔵
※後期のみ

【展覧会概要】（資料 2 ～ 5 ページ参照）

木村武山（1876-1942）は現在の茨城県笠間市出身の日本画家です。東京美術学校時代には岡倉天心の薰陶を受け、日本美術院創立にも副員として参加しました。明治 39（1906）年、天心が苦境にあった日本美術院第 1 部（絵画）の茨城県五浦移転を決行した際には、横山大観、下村觀山、菱田春草の 3 人の先輩と共に家族を引き連れて五浦に移住しました。以後、武山はその生涯を近代日本画の発展にささげ、歴史画、花鳥画、仏画など幅広いテーマで作品を残しました。現在、武山の作品は、美術館・博物館のみならず多く個人によって所蔵されています。

本展は、木村武山の生誕 150 年を記念し、県内外の美術館のほか、個人所蔵家のご協力を得て開催いたします。代表作に加え、これまであまり出品されてこなかった作品、長年、所在が不明となっていた作品など、優品約 60 点を前期・後期に分けてテーマごとに紹介します。特に「仏画の武山」と称され、新境地を開いた後半生の仏画作品には、武山の深い信仰心と高い技量が表れており、今なお見る人に深い感銘を与えていきます。本展では、武山にとっての仏画の意義を再考し、武山芸術の集大成ともいえる笠間大日堂に安置されている厨子を特別に展示します。

【開催概要】

- 1 展覧会名 生誕 150 年記念 木村武山展
- 2 会期 令和 8 (2026) 年 2 月 11 日 (水・祝) ~ 4 月 19 日 (日)
前期：2 月 11 日 (水・祝) ~ 3 月 22 日 (日)
後期：3 月 24 日 (火) ~ 4 月 19 日 (日)
※絵画は前期・後期で全点展示替え
- 3 休館日 毎週月曜日
※ただし 2 月 23 日 (月・祝) は開館。2 月 24 日 (火) は休館
- 4 開館時間 午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時 (入場は午後 4 時 30 分まで)
- 5 会場 茨城県天心記念五浦美術館 展示室 A
- 6 主催 天心記念五浦美術館 生誕 150 年記念木村武山展地域連携実行委員会
- 7 入場料 一般 360 (290) 円/満 70 歳以上 180 (140) 円/高校生 240 (170) 円/小中生 170 (110) 円
※() 内は、20 名以上の団体料金
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方および付き添いの方 1 名は無料
※土曜日は高校生以下無料 (春休み期間は除く)
※3 月 14 日 (土) は満 70 歳以上の方無料
- 8 出品数 約 60 点 (大日堂厨子を除く)
- 9 主な出品作品 (制作年順)
- 【前期】
- | | | |
|-------------|------------------------|-----|
| 陶淵明 | 大正 2 年頃 (c. 1913) | 個人蔵 |
| 不動明王 | 大正 4-5 年頃 (c. 1915-16) | 個人蔵 |
| 花鳥十題の内 雨中の柿 | 大正 9 年 (1920) | 個人蔵 |
| 花鳥十題の内 白菊 | 大正 9 年 (1920) | 個人蔵 |
| 群鶴 (其一・二) | 大正 13 年 (1924) | 個人蔵 |
| 聖観世音菩薩 | 大正 14 年頃 (c. 1925) | 個人蔵 |
| 武神 | 昭和 11 年 (1936) | 個人蔵 |
- 【後期】
- | | | |
|------------|----------------------------|----------|
| 高倉帝巣島行幸 | 明治 29 年 (1896) | 東京藝術大学蔵 |
| 伊邪那岐・伊邪那美命 | 明治 37-39 年頃 (c. 1904-06) | 笠間稻荷美術館蔵 |
| 出山之釋迦 | 明治 45-大正 3 年頃 (c. 1912-14) | 個人蔵 |
| 秋草図屏風 | 大正 5-6 年頃 (c. 1916-17) | 個人蔵 |
| 雪中の雉 | 大正 9-10 年頃 (c. 1920-21) | 個人蔵 |
| 涼夜 月に葡萄 | 大正 9-10 年頃 (c. 1920-21) | 個人蔵 |
| 観世音寺炎上之図 | 昭和 9 年 (1934) | 横浜美術館蔵 |
| 聖観世音菩薩 | 昭和 10-12 年頃 (c. 1935-37) | 個人蔵 |
- 【通期】
- | | |
|--------------------------|-----------|
| 笠間市指定文化財 木造大日如来坐像 (平安中期) | 笠間市教育委員会蔵 |
| 木造大日如来坐像 厨子 (昭和初期) | 笠間市教育委員会蔵 |

※都合により、出品作品が変更になる場合もあります。

10 本展のみどころ

(1) 新発見の作品、県内美術館初出品の作品を公開

木村武山の作品には、行方が分からなくなっている作品が相当数ありますが、今回その所在が明らかになった作品、あまり美術館等で展示されてこなかった作品を紹介します。

(2) 説話・物語、花鳥風月、仏画の 3 つのテーマにわけて展示

展示作品を武山が得意とした 3 つのテーマに分けて紹介します。特に仏画においては、右手の自由を失って筆を左手に持ち替えて描いた「左武山」と言われた時代の作品も紹介します。なお、絵画は前期・後期で全点展示替えいたします。

(3) 武山芸術の集大成、大日堂安置の厨子と大日如来坐像を特別展示

笠間大日堂に安置されている厨子及び大日如来坐像（笠間市教育委員会所蔵）は会期を通して展示いたします。

11 広報文

(1) 本展は木村武山の生誕 150 年を記念し、県内外の美術館や個人所蔵家の協力を得て開催します。代表作に加え、これまであまり出品されなかった作品、長年、所在不明だった作品など優品約 60 点をテーマごとに前期・後期に分けて紹介します。特に「仏画の武山」と称され、新境地を開いた後半生の仏画作品には、武山の深い信仰心と高い技量が表れています。本展では、武山にとっての仏画の意義を再考し、武山芸術の集大成ともいえる笠間大日堂に安置されている厨子を特別展示として公開します。 (242 字)

(2) 木村武山の生誕 150 年を記念して開催する本展では、代表作に加え、あまり出品されなかった作品、所在不明だった作品など優品約 60 点を前期・後期に分けて紹介します。本展では、武山にとっての仏画の意義を再考し、武山芸術の集大成となる笠間大日堂の厨子を特別公開します。 (125 字)

(3) 木村武山の生誕 150 年を記念し、代表作をはじめとする優品約 60 点を前期・後期に分けて紹介します。本展では、武山の仏画に対する意義を再考し、武山芸術の集大成となる笠間大日堂の厨子を特別公開します。 (93 字)

12 オープニングセレモニー・内覧会

- ・開会式 2 月 10 日（火）午後 1 時～ 茨城県天心記念五浦美術館 企画展示室入口
- ・内覧会 午後 1 時 30 分～

13 会期中のイベント

(1) 講演会「木村武山の描いた芸術と宗教—岡倉天心の教えのもとで—」

当館館長が木村武山とその作品の魅力に迫ります。

講師：小泉晋弥（茨城県天心記念五浦美術館長）

日時：3 月 1 日（日）午後 1 時 30 分～（約 90 分）

会場：講堂

定員：114 名 ※要企画展入場券（半券可）、当日先着順、申込不要

(2) ワークショップ「武山の描いた仏画を写仏する」

武山作品の一部を紺地の紙に金色で写仏します。

日時：3 月 7 日（土）午前 10 時～、午後 1 時 30 分～

会場：講座室

定員：各回 20 名程度 ※要企画展入場券（半券可）、当日先着順、申込不要

(3) ギャラリートーク

展覧会担当者が作品解説を行います。

日時：2 月 21 日（土）、4 月 5 日（日）午後 1 時 20 分～（約 40 分）

会場：企画展示室 A ※要企画展当日入場券、申込不要

(4) 映画会（五浦名画座）

日時：3 月 8 日（日）「海外特派員」（1940 年/120 分/モノクロ/アメリカ）

会場：講堂 午前の部 9 時 45 分～、午後の部 1 時 30 分～（15 分前開場）

天心記念五浦美術館 生誕 150 年記念木村武山展地域連携実行委員会プレスリリース

定員：各回 114 名 ※無料、当日受付先着順、全席自由

広報用図版 ※表紙の画像も提供可能です。

【前期：2026 年 2 月 11 日(水・祝)～3 月 22 日(日)の出品作品】

※都合により、出品作品が変更になる場合もあります。



陶淵明 大正 2 年頃 (c.1913) 個人蔵

武神 昭和 11 年 (1936) 個人蔵



群鶴 (其一・二) 大正 13 年 (1924) 個人蔵



花鳥十題の内 雨中の柿
大正 9 年 (1920)
個人蔵

花鳥十題の内 白菊
大正 9 年 (1920)
個人蔵

不動明王
大正 4 - 5 年頃 (c.1915-16)
個人蔵

【後期:2026年3月24日(火)~4月19日(日)の出品作品】



高倉帝嚴島行幸 明治 29 年 (1896) 東京藝術大学蔵



秋草図屏風 大正 5 - 6 年頃 (c.1916-17) 個人蔵



伊邪那岐・伊邪那美命
明治 37-39 年頃 (c.1904-06)
笠間稻荷美術館蔵



觀世音寺炎上之図
昭和 9 年 (1934)
横浜美術館蔵



聖觀世音菩薩
昭和 10-12 年頃 (c.1935-37)
個人蔵

【図版使用に際しての注意】

- ・展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用願います。
- ・図版への文字乗せ、トリミング等の一切の加工はご遠慮ください。
- ・図版使用の際は必ずキャプションを明記してください。
- ・図版はデータでの提供となります。
- ・画像提供をご希望の方は広報担当までご連絡ください。

《問い合わせ先》

茨城県天心記念五浦美術館
〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083
TEL:0293-46-5311 FAX:0293-46-5711
E-mail : kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp
展覧会担当: 村木 正英 (むらき まさひで)
木澤 沙羅 (きざわ さら)
広報担当: 大津 友美 (おおつ ゆみ)
※本リリースの記載内容は、当館ホームページから
もご覧いただけます。